

市町村名	所管課	スクール・クラス名	実施形態	委託先	対象年齢	定員	実施場所	内容（実施期間、実施回数、カリキュラム、主な内容等）							カリキュラム（主な内容）	課題	
								教室開設期間	一人当たりの通室期間	一人当たりの実施回数	1日あたりの時間	参加人数（2月末までの累計）	参加者の主な国籍	語彙テストの実施の有無			
1	豊橋市	多文化共生・国際課	母語保持教室事業	委託	NPO法人 ABT豊橋ブラジル協会	小学生・中学生	30人	ABT豊橋ブラジル協会事務所	通年	1年間	40回程度	90分	7人	ブラジル	無	ポルトガル語の読み書きや、母国の文化、習慣、歴史、行事などを指導し、子どもたちのアイデンティティの確立を図る。	定住化が進み、母語保持のニーズが減少している。アイデンティティの確立、バイリンガル人材育成など目的との因果において行政として実施する必要性に疑問がある。
2	豊川市		PECLA(ペクラ)	補助	(公財)豊川市国際交流協会教育プログラム運営費補助金	原則6歳から	10人(1時間あたり)	ウィズ豊川(豊川市社会福祉会館)	通年(月に3回土曜日に実施)ポルトガル語13:00-15:25 スペイン語16:15-18:00	通年(1年毎に更新)	年36回	ポルトガル語2時間25分 スペイン語1時間45分(各クラスとも40分～50分で生徒を入れ替え)	200人(1回あたり約10人、20回実施)※コロナのため活動を自粛した時期があるため	ブラジル、ペルー	無	発音、アルファベットを書く練習、読解や聞き取りの練習	新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言や、まん延防止措置に伴う活動の自粛により、例年より4割程度活動日が減少したことで、コンスタントな実施ができなかったことが影響し、生徒数が減少してしまった。
3	豊田市	経営戦略部・国際まちづくり推進課	母語保持教室(ポルトガル語・中国語)	国際交流協会		小学生～高校生	ポルトガル語:30人、中国語:40人	(公財)豊田市国際交流協会	ポルトガル語:土曜日、各期10回、年間30回(コロナの影響で参加者が集まらず、1期(10回)のみ開催)	ポルトガル語:約2か月 中国語:約8か月	ポルトガル語:10回 中国語:30回	1時間	ポルトガル語:延べ37人 中国語:延べ226人	ポルトガル語:ブラジル 中国語:中国	無	ポルトガル語:ブラジルにつながる小学生向けの基礎のポルトガル語を学ぶ 中国語:レベル別に中国語会話・読み書きと中国文化を学ぶ	ポルトガル語:コロナの影響により参加自体を控える傾向があり、運営が厳しい(令和3年度は2期以降休講) 中国語:年度途中の退会が多く、レベルが上がらない子どもが散見され、中・上級クラスが常に定員割れ。コロナの影響により活動制限が増加し、座学の学習中心になり、低学年児は1時間のクラスに飽きてしまう。
4	西尾市	教育委員会学校教育課	多文化ルームKIBOU(外国にルーツをもつ子どもに対する就学支援事業)	委託	外国にルーツを持つ子どもに対する就学支援事業	小学生・中学生	なし	多文化ルームKIBOUおよび、オンライン	令和3年4月～令和4年3月	令和3年4月～令和4年3月	36回	1時間	180人	ブラジル、ベトナム、中国	有	母語の読み書き、会話、年中行事	母語を保持することで得られる子どもの発達や人格形成における重要性、母語を保持することで地域社会にとっても良い人材育成の機会を作っているのが、子どもの母語保持についてはまだまだ意識が薄いため、母語クラス講師への予算は充てられていない。母語クラス講師は、他に仕事や家庭での役割をもち、大変忙しい中で活動しているが、熱意だけでは継続できない現状がある。
5	小牧市		ポルトガル語教室	NPO等		小学生	5名	一色コスモスサポート学習の会 学習室	2020年10月～2022年2月	1年	週1回	1時間	5人×12か月	ブラジル、ペルー	有 ポルトガル語テキスト カード プリント など	アルファベット練習 語彙ノート 読み練習など	母語教育の必要性は感じるが、小学校低学年の子にとって、日本語も難しいのに、更にハードルが上がる。
6	大府市	学校教育課		直営		小中学生	無	市内小中学校	無	無	無	無	不明	ブラジル、ベトナム、フィリピン等	無	無	無
7	知多市			NPO等				エスペランサ(ちたビジョンプロジェクト事務所)	随時					ブラジル			
8	岩倉市	学校教育課	ポルトガル語指導	直営		7歳～15歳(小中学校在学期間)	保護者が申し込んだ児童生徒全員	児童生徒在籍校	通年	適宜	基本週1回	1時間	20名程度	ブラジル	無	ブラジルにルーツを持つ児童生徒に母語指導。	特になし。
9	蟹江町	民生部子ども課	蟹江町プレスクール事業	委託	(一社)かにえ子ども日本語の会	4・5・6歳児	特になし	町内各保育所及び私立幼稚園	毎年6月から3月の間	毎年6月から3月の間	5・6歳児:14回 4歳児:7回	1時間	18人	フィリピン、中国、ベトナム、ブラジル	無	母語教育としての特別なカリキュラムを組んでいるわけではないが、プレスクール内で日本語を教えるにあたり、以下のような独自のテキストを使用することで、母語に触れる教育を実施している。 例えば「あ」の勉強の際、「あり(蟻)」や「あめ(雨)」等の「あ」がつくものを同時に教えている。その単語の下に母語ではどのように言うのかを記入する欄が設けられており、家に帰ってから両親に母語で記入してもらい取組を行っている。そうすることにより、日本語に加えて母語を同時に覚えることができると考えている。	幼稚園、保育所等に所属していない子どもたちについては、日本語指導等の案内をすることが難しい。